

の免状を持たなければ出来ない事にして取締つてをる。

#### ハ、獵鳥獸の貯藏

獵期以外に獵鳥獸を貯藏する事を禁止若くは制限する法令は近來次第に弘く諸州に行はるゝ様になつて來た。此事實は狩獵法中特に注目し價する事である。獵鳥獸の捕獲を禁止する法令は單に獵者即獵鳥獸の販賣者に供給する者に對してのみ有効であるに過ぎないが此貯藏禁止の法律は獵者販賣者雙方に對して効力があり鳥獸保護上頗効果が多いのである。

#### ニ、獵鳥獸の販賣

現今合衆國に於て獵鳥獸の凡ての種類又はある特殊の種類を限りて其販賣を禁止してをる所は三十二箇州及加奈陀の六郡である。而して尙爾餘の州も次第に此種の禁令を設けんとしつゝある。

アリゾナ、アイダホ、カンサス、モンタナ及びネバダの六州では獵鳥獸は如何なる種類と雖其賣買を禁止してある。マサチューセツツ、ニュウハムプシヤーではエゾヤマドリ及びヤマシギ、の賣買を禁じ南ダゴタでは凡ての獵獸を、ミネソタでは鶉、エゾヤマドリの類を、マニトバでは凡ての獵獸及山地の獵鳥を、オンタリオでは鶉エゾヤマドリ、ヤマシギ、ジシギの販賣を禁止してゐる。又所によつては禁獵期に入つて後數日間は特に賣買を許可してをる例へばイリノイ、アイダホ、マサチューセツツ、ニュウジャーシ

、オハイヲ及び加奈陀の五郡ではさうである。

茲に問題となる事は他州から輸入した獵鳥獸は之を貯藏又は販賣を禁止し得べきものなるや否やと云ふ事で中々議論のある所であるイリノイ州では州内で捕つた獵鳥獸は如何なる種類でも販賣を禁じてあるのであるが他州から法律に牴觸する事なしに輸入したる獵鳥のある種類は販賣を許可されてある。然しながら斯様な事は各州共同して實行しなければ其効力は少いものであるそれ故ある種類の獵鳥獸に至つては合衆國內の各州共に之を保護し其販賣を禁止してある。例へば「ブレイリーチツク」(エゾヤマドリの一種)の如きは現今では之を産する州は何れも其販賣及輸出を禁止してゐる又「アンテロープ」獸の如きも捕獲を許してある州は二三あるが之を他州へ輸出する事は何れの州でも皆禁止して居る。(終り)

### ●北海道に於ける兩棲類及び爬蟲類

ドクトル、ウイ、キユートネー

八田、橋本

(明治四十三年十一月五日受領)

北海道は動物分布上至つて面白い島であるが、殊に陸上の兩棲類と爬蟲類とに關して最も興味あるもの一つである、これ迄此地で發見された兩棲類と爬蟲類は僅かに九種に過ぎない。即ち下の如し。

## 北海道産兩棲類表

## 鈍口科 Ambystomidae

- 一、エゾサンショウウオ *Hynobius lichenatus*  
Boulenger.  
産地 石狩白石、同圓山、膽振千歳

## 兩蛙科 Hylidae

- 二、アマガヘル *Hyla arborea japonica* Guenther.  
産地 札幌、石狩白石、同定山溪、函館、小樽、根室

## 蛙科 Ranidae

- 三、エゾアカガヘル *Rana temporaria* Linn.  
(*Rana fusca* Thomas.)  
産地、札幌、石狩定山溪、膽振千歳、小樽、釧路厚岸、根室落石

## 北海道産爬蟲類表

## 蜥蜴科 Scincidae

- 四、トカゲ *Plumeces latiscutatus* (Hallowell)

## 産地 札幌

## カナヘビ科 Lacertidae

- 五、カナヘビ *Tachydromus tachydromoides*  
(Schlegel.)  
産地 札幌、小樽、キコナイ

## 游蛇科 Natricidae

北海道に於ける兩棲類及び爬蟲類(サイ、キヌーネー、八田、橋本)

## 冠蛇亞科 Coronellinae

- 六、アマダイシヤウ *Elaphe climacophora* (Boie.)

## 産地 札幌、後志忍路

- 七、シヤンゴ *Elaphe quadrivirgata* (Boie.)

## 産地 札幌、室蘭、オコナイ、錢函

- 八、ヂムグリ *Elaphe Conspicillata* (Boie.)

## 産地、札幌

## 響蛇科 Crotalidae

- 九、ヤマシ *Agkistrodon blomhoffii* (Boie.)

## 産地 札幌、渡島恵山、室蘭

然るに此十種の内、エゾアカガヘルを除き他の八種は悉く本州にも産す、今又、樺太の陸上兩棲類及び爬蟲類を見るにこれ迄発見された種類は僅かに四種で、此上に見込はまづないと云つてよい、其四種は左の如し。

## 樺太産兩棲類及び爬蟲類表

## 蛙科 Ranidae

- 一、エゾアカガヘル *Rana temporaria* Linn.  
(*Rana fusca* Thomas.)

## 産地 ソロウイヨフカ

## 産地

## 蝦蟇科 Bufonidae

- 二、カラフトヒキ *Bufo sachalinensis* (Nikolski.)

## 産地 コルサコフ

## カナヘビ科 Lacertidae

北海道に於ける兩棲類及び爬蟲類(サイ、キヌーネー、八田、橋本)

三、カラフトトカケ *Lacerta vivipara* Jacq.

産地、トロウイスコエ

胎生蛇科 *Cobridae*

四、カラフトマムシ *Vipera berus* Jinn.

産地、ガルキノウラスコエ

即ち樺太の兩棲類及び爬蟲類が、對岸の西比利亞地方の一分派であるのは疑もない事實で、其内、エゾアカガヘルは北海道にも表はれるが、日本本州の者は一つもない。

此れを考へると北海道は日本本州の兩棲類と爬蟲類の最北端の産地なる事が甚だ明瞭である、のみならず熱帯又は亞熱帯に特有の三屬 *Eumeces*, *Tachydromus*, *Agkistrodon*, 屬が、東亞細亞で、此處まで遠く延びて來て居るのが明かに窺はれる、此事實から見ると滿洲亞地方と西比利亞地方との境異線である津輕海峽即ちブラキストーソ線は兩棲類と爬蟲類とに關してはまづ無意味と云つてよい。之に反し宗谷海峽が北海道の動物と樺太の動物とを分離する點は大に注目を價する。此海峽は其幅から云へば津輕海峽の二倍より少しく大なる位で、其深さから云へば半分より餘程淺いが動物圈に係る遮斷はしかく劃然である。

日本本州の兩棲類と爬蟲類とは水中に生存するものと多少疑問のあるものと北海道で知れて居る九種とを除いて

次の十七種である、此れに已知の最北端の産地を加へて左表に示す。

日本本州に産じ北海道に未發見の兩棲類及び爬蟲類表

一、ハンザキ *Megalobatrachus japonicus*

(Temminck)

飛騨

二、イモリ *Diemictylus pyrhogaster* (Boie.)

陸奥

三、ブチサンセウウヲ *Hynobius naevius* (Schlegel.)

四、カスミサンセウウヲ *Hynobius nebulosus* (Schlegel.)

下野

五、ハコネサンセウウヲ *Onychodactylus japonicus* (Houttuyn.)

陸奥

六、ヒキガヘル (ガマ、イボガヘル、ドモン) *Bufo bufo japonicus* (Schlegel.)

陸奥

七、トノサマガヘル (アヲガヘル) *Rana nigromaculata* Hallowell. (*Rana esculenta* L. var. *japonica* Maack)

陸奥

八、アカガヘル *Rana japonica* Guenther.

- 陸奥  
九、ツチガヘル *Rana rugosa* (Schlegel.)
- 陸奥  
十、ヌマガヘル *Rana limnoclaris* Wiegmann.
- 大和  
十一、シエレーゲルカシカ *Polypedates* Schlegelii (Fuehler.)
- 陸奥  
十二、カジカガヘル *Polypedates buergeri* (Schlegel.)
- 岩代  
十三、ヒバカリ *Natrix vibakari* (Boie.)
- 陸奥  
十四、ヤマカガシ *Natrix tigrina* (Boie.)
- 陸奥  
十五、セグロヘビ *Achalina spinalis* Peters.
- 駿河  
十六、シロマダラ *Dinodon orientale* (Illigendorf.)
- 下野  
十七、ヤモリ *Gekko japonicus* (Dunn. & Bib.)
- 武藏

注意 *Hynobius peropus* は吾人の見る所では *Hynobius naevius* の同一種を考へられるから此處に省く。

北海道に於ける兩棲類及び爬蟲類 (ウイ、キニーネー、八田、橋本)

此等の種類は分布上左の三組に區別して考へる事を得。  
第一類は次の三種を含む。

- 一、ヤモリ *Gekko japonicus* (Dunn. & Bib.)
- 二、セグロヘビ *Achalina spinalis* Peters.
- 三、シロマダラ *Dinodon orientale* (Illigendorf.)

此の三種は東方 (Orientale) 即ち亞熱帶屬に屬し、北海道で將來毫も發見される見込のないものである。

第二類には下の五種あり。

- 一、ハンザキ *Megalobatrachus japonicus* (Temminck.)
- 二、ブチサンセウウヲ *Hynobius naevius* (Schlegel.)
- 三、カスミサンセウウヲ *Hynobius nebulosus* (Schlegel.)
- 四、ヌマガヘル *Rana limnoclaris* Wiegmann.
- 五、カジカガヘル *Polypedates buergeri* (Boie.)

此五種は本州でも猪苗代湖以北ではまだ見られない。猪苗代湖は北緯三十七度三十分位にして、本州の最北端の陸奥の下北郡太間崎を相距る事、實に五百基米である。

第三類は殘餘の九種を含む。

- 一、イモリ *Diemectylus pyrrhogaster* (Boie.)
- 二、ハコネサンセウウヲ *Onychodactylus japoni-*

北海道に於ける兩棲類及び爬蟲類(サイ、キヌーネー、八田、橋本)

- cus (Schlegel.)
- 三、ヒキガヘル *Bufo bufo japonicus* (Schlegel.)
- 四、トノサマガヘル *Rana nigromaculata* Hallowell.
- 五、アカガヘル *Rana japonica* (Guenther.)
- 六、ツチガヘル *Rana rugosa* (Schlegel.)
- 七、シユレーゲルカツカ *Polydectes schlegelii* (Guenther.)
- 八、ヒバカリ *Natrix vibakari* (Boie.)
- 九、ヤマカガシ *Natrix tigrina* (Boie.)

此九種の動物が北海道に棲まない理由を説明するのは容易の業でない。北海道は動物分布上、西比利亞、亞地方で日本本州は滿洲亞地方に屬し、津輕海峽は其境界線である、北海道にこれ迄發見された九種の内、樺太にもあるエゾアカガヘルの外は皆な此海峽を越えて多年の間に北海道に移住したと云へば、其れまでであるが、其越すには其れ相應の根據がなければならぬ、然し此根據を見出す前に此者より一層緊急を要するのは、北海道に於ける兩棲類と爬蟲類とは目下知れて居るものの外にはないか、若しくはまだあるかを確かめねばならぬ事であらう、吾人を以て考へると目下北海道の兩棲類、爬蟲類は充分に知れたとは云へぬ。何んとなれば北海道の此等の種屬に就きて云々して居るのは多くは札幌附近で採集した標

本ばかりであるからである。由りて鳥の各部を意を用ひて探ねたなら、まだ知れて居ない兩棲類と爬蟲類が餘程出で來ぬとも限らぬ。樺太の南部に、カラフトヒキが澤山居る陸奥の恐山の恐山湖、津輕の丘陵にヒキ屬がいくらか居る處から考へると北海道にヒキ屬に屬する何者かが居ないのは實に不審に思はれる。無論此れは氣候の勢とは云へぬ、何んとなれば氣候は樺太の南部と北海道の北部、北海道の南部と陸奥とは左程に違はない譯であるからである、由りて先づ北海道の隅々を探索するのは此問題を解決する焦眉の急と思はれる。

是れは獨り北海道でのみ急を要する事ではなくて本州に於ても又緊要な事は明である、例ばエゾアカガヘルが陸奥の方へ渡つて居らぬとも限らぬ、何んとなればザリガニ杯は随分遠く秋田縣、岩手縣邊までも渡つて居るではないか、又エゾサンセウウラ杯も此れまで南端の産地として知られた青森よりも、もつと南方に進んで居るかも知れぬ、已にハコネサンセウウラが本州の北端陸奥で發見されたのは實に意外の事ではあるまいか、又本州で發見された二十六種の兩棲類爬蟲類の棲所も未だ充分に知れて居ないから此れも探ねる必要が非常にあると思はれる、由りて此等の事項に關して發見され次第本誌上で、發表せられたなら斯學の利益は至つて大なりと思はれる。

附言 若し御發見なされた諸彦で、種屬不明の事あら

ば、下名に於て可成り標本も集めて居りますから右の調査は引受けます、但し御送りになつた標本は直ちに御返送致します、今、標本の採集と保存に就て左に二三御注意を申上します。

一、サンセウウヲの標本は採集せられし産地の海拔と、若し出来得べくば其棲所の水温を併せて記入されたし。

二、カヘル、ヒキ、サンセウウヲは六十五%の酒精に保存すれば尤も好都合です。(六十五%酒精と云ふのは三十五度酒精四百三十五。日へ水六十五mlを混すればよいのです。)

元來此種の標本は餘り強度の酒精に保存すると、體の各部が非常に縮まつて堅くなり、又、形も大に壞れて調査上に不便ですから、前に述べた六十五%酒精に貯藏する必要があります、又フォルマリン液に貯へた標本は體面の皮膚が膨れて種々の要點が見えなくなりますから、成る可くフォルマリン液は避けた方がよいのです。

三、凡て體の内部に酒精が泌み易い様に、ナイフで腹面に少しの創をつける必要があります。

四、蛇、トカゲは七十五%酒精即ち三十五度酒精に入れられたし、此れも腹面に一仙米許りの切創を幾箇所にも附けて、酒精の泌み易い様にするがよい。又蛇の體は時計のバネの様に巻いて置けば後

日本産蠍蟲目に就て(三宅)

日の調査上に便利で、且、標本瓶に貯藏するのにも好都合です。

東北帝國大學農科大學動物學教室

橋本潤一郎

### ●日本蠍蟲目 Mecoptera に就て

理學士 三宅恒方

(明治四十三年十一月七日受領)

日本産蠍蟲目は歐米諸國に比較して其種類に富み現今は四十種(内一種は新種にて目下記載中)の多きに至れり而して本邦産のものは Panorpidae の一科を以て代表し得べく(勿論 Enderlein 氏は本年 Panorpidae 中の Bitacus を分離せしめて Bitacidae としたるも)従來は Panorpa, Leptopanorpa, Panorpodes, Bitacus の四屬を包有せしが Newm. 氏が一昨年 Diplostigma なる新屬を設け(此新屬は餘り感心せず、研究の上は破壊し得るならんと信ず)今年又 Enderlein 氏が Anlops なる新屬をつくりたるを以て都合六屬となれり是等の六屬の關係、詳細なる研究は他日にゆづるとして現今まで記載せられたる種類を此六屬に分屬せしめたる總目錄とでも云ふべきものを左に掲ぐる事とせん。

茲に一言せざるべからざるは余は非常に不運なりし事なり。そは余が Panorpa 研究に従事せると同時に Spain